

2023 たたら操業体験

～日本古来の鉄づくり技術や過程を学ぶ～

2023年11/24日～11/26日 2泊3日

場所:島根県雲南市



【行程】

1日目

須我神社散策→割烹 すぎ原 昼食→鉄山師の町並み散策→鉄の歴史博物館 見学→菅谷たたら三内見学→宿・たたら交流会

2日目～3日目

たたら操業体験(24時間操業)→昼食→宿(入浴)

①須我神社



バスツアーのガイドさん曰く、古事記に記される日本で最初の御宮！

八岐遠呂智(やまとのおろち)を退治した須佐之男命(すさのおみこと)は、稲田姫と共にこの須賀の地に「吾が御心清々し」と話して宮造りをなされたそうです。

その時に美しい雲の立ち昇るのを見て【八雲立つ 出雲八重垣 つまごみに 八重垣つくる その八重垣を】と歌ったそうです。

この和歌は、三十一文字の歌で日本で一番古い歌でもあり、この地が「和歌発祥の社」と呼ばれる由縁と学び感動しました。

②割烹 すぎ原



昼ご飯を割烹 すぎ原店さんにお邪魔してきました。
食材と地元の食材をぶんだんに使った種類豊富な松
花堂の食事を堪能しました。

その中でも、秋の木の子料理は特に絶品の料理でとて
もおいしかったです！

このお店は、春の山菜料理と今回堪能した秋の木の子
と料理で季節に応じてメニューを変えているのでい
つ行っても料理を楽しめると思うので島根県に行っ
た際にはまた食べに行きたいと思いました。

③鉄山師の町並散策



この散策では、雲南市吉田町の【鉄の吉田村】というところを拝見してきました。

日本刀や刃物の鉄を主に作っていた村ですが、またそれとは別で農耕用の道具などにも利用された鉄は、

「よしだむら」を含めた中国山地を中心に産出され、日本の文化を支えてきたそうです。

鉄とともに歩んできた風土と歴史、文化遺産正しく保存し公開するために昭和61年に【鉄の歴史村】というのができたそうです。

すごくきれいに保存されており1本道にそって建ち並んでいて想像していたのとかなり異なりびっくりしました。

④鉄の歴史博物館



主にたたら製鉄の歴史や技術・人々が使っていた道具などが展示されていました。

これまで人々が石や木の道具などしか使っていなかったが、鉄のくわやすきなどの道具を手にした時どんなようすだったのか、また鉄は人々にとってどれだけ貴重な存在だったのかをこの博物館でたくさん知ることができました。

観光客にたたら操業が実際にどんなかたちで行われていたのかを館内で上映されている「和鋼風土記」を見ることができ、学ぶことができました。

⑤菅谷たたら三内



たたら製鉄は原材料となる木炭や砂鉄が必要ですが、原料となるこれらはできるだけ製鉄場の近くにあることが条件だったそうです。

そのため高殿は山林の中に設けられることが多く、働く人も高殿付近に居住していたそうです。

「三内」というのはこうした地理的な特徴を表しています。

およそ 5000 m²の範囲に高殿や元小屋のほか、かつてたたら製鉄に従事した職人たちの長屋住宅が今も建ち並んでいて菅谷たたらの町並み自然と共に深く感じることができました。

⑥宿・たたら交流会

今回の泊まった場所は 出雲神話の薬湯「清嵐荘」さんに宿泊させていただきました。

すごく自然豊かな宿で快適に過ごすことができました。

またこの宿の自慢である「出雲湯村温泉」は、1300年前に編纂された出雲国風土記に「漆仁の湯」と記され、斐伊川の清流を望む山峡のたたずまいが落ち着いた風情を醸し出す、自然の中の薬湯リゾートと知り、春夏秋冬の季節では、春の桜、夏の河鹿、秋の紅葉、冬の雪あかりにむせぶ湯に香に四季折々の趣が楽しめるため温泉好きにはたまらないなど興奮しました。

交流会では、明日のたたら操業に向け今回の参加者の皆さんと仲を深めるために交流する機会を設けて頂きました。

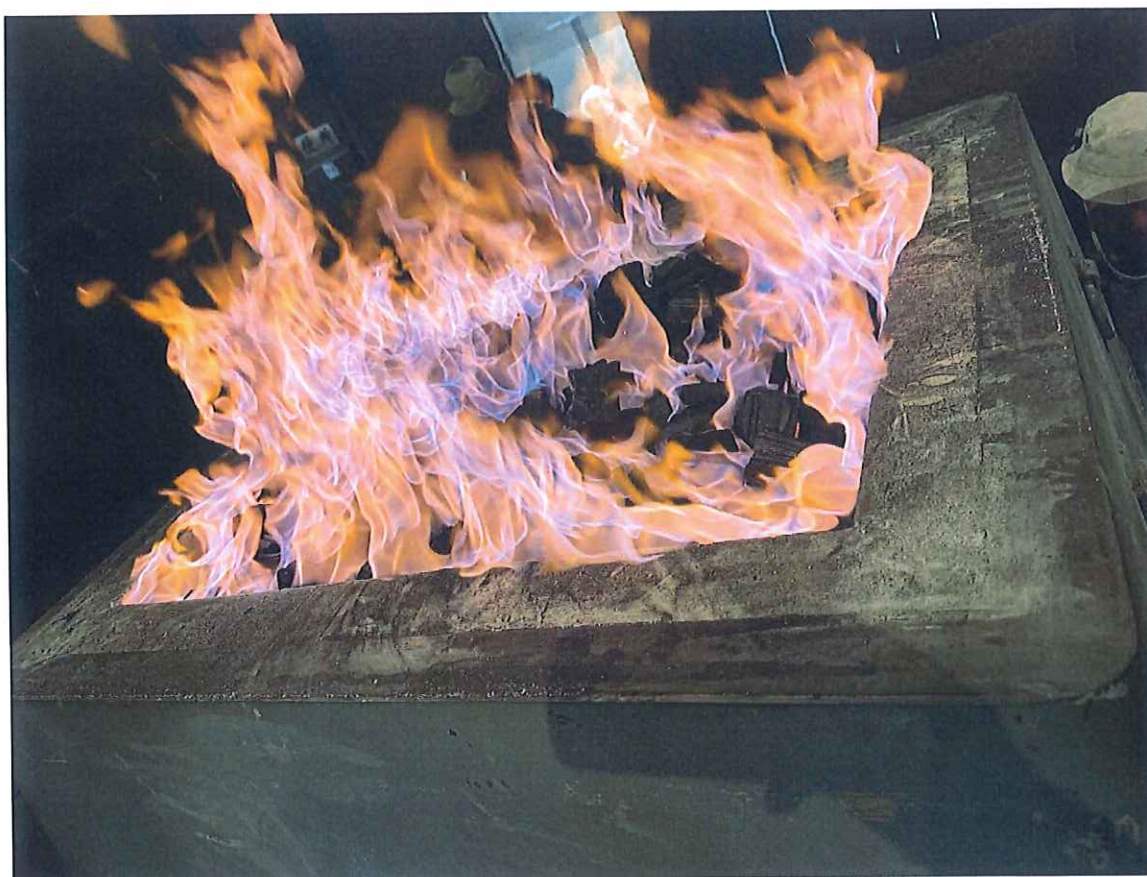
最初はなかなか話せなかったのですが、次第に話せるようになり、かなり盛り上がり交流会があって大成功だと実感しました。

⑦たたら操業体験

二日目の朝から三日目の昼まで（24 時間）操業体験を行いました。

その中でもたくさん作業に取り組ませて頂きました。

火入れ



木炭投入



初種 (砂鉄投入)



羽口掃除



初花(ノロ出し)



これらの作業を 24 時間繰
り返してきたのが.....

鉬(ケラ) !!



完成!

～まとめ～

今回のたたら操業を体験通して普段やらない事や文化に触れることで私自身よい経験になり、始めのバスツアーから最後までたくさんの知識を学ぶことができました。本当にうれしかったです。

また、自然に触れ合い、村人たちと協力し、日本の歴史の一つに触れ、今回の体験が私の人生の宝物になりました。



2023年12月03日

清和工機株式会社

濱本 豊